

学校だより 第244号(8-2)

令和8年4月30日

け や き

櫻



横浜市立永田中学校  
横浜市南区永田みなみ台7-1  
TEL045-715-5511

## 「判断する心」と「改める勇氣」 ～行事と地域生活を通じて～

校長 山岸 隆夫

校庭の木々が鮮やかな若葉に包まれ、爽やかな風が吹き抜ける季節となりました。新しい環境に緊張していた始めのころより、生徒たちの活気あふれる声が校舎に響いています。

来月は各学年の大きな行事が控えています。2年生の自然教室、そして3年生の修学旅行。教室を離れ、仲間と共に過ごす時間は、何ものにも代えがたい学びの場となるはずです。また、6月11日の体育祭に向けた練習も始まりました。放課後の応援団の力強い声や、真剣に競技を模索する姿に、学校全体が一つにまとまっていく手応えを感じています。

### ■地域の方から寄せられた「善い行い」の報せ

さて、本日は「自分を律する」ということについて、最近の地域での出来事を通してお話しします。先日、地域の方から大変嬉しいお電話をいただきました。「道端で高齢者の方が転倒して困っていたところ、本校の生徒がすぐに駆け寄り、優しく声をかけて介抱してくれた。その誠実な姿に深く感動した」という内容でした。

自分のことだけでなく、周囲の状況に目を配り、困っている人に自然と手を差し伸べられる。本校の生徒が、地域の中で「誰かの支え」として行動してくれたことを、私は校長として心から誇りに思います。



### ■「間違い」を自覚し、正すことの大切さ

その一方で、地域の方から厳しいご指摘をいただく場面もありました。一部の生徒による公共の場でのマナーや、周囲への配慮を欠いた行動についての注意喚起です。

私たちは地域の方々の温かい見守りがあってこそ、安心して生活ができています。自分たちの振る舞いが周りにどのような影響を与えるか、その想像力を欠いてしまったことは、真摯に受け止めなければなりません。

人間ですから、間違いを犯すことはあります。しかし、大切なのはその後です。「何が善いことで、何が悪いことか」を正しく判断し、もし間違いを指摘されたなら、素直に認めて勇氣を持って改めること。この「自浄能力」こそが、人を大きく成長させるのです。

これから始まる行事や体育祭でも、皆さんの真価が問われます。盛り上がる場面だからこそ、ルールを守り、自分を律しながら楽しむ。その姿勢があって初めて、行事は本当の意味で成功したと言えるでしょう。

善い行いを自信に変え、至らぬ点は潔く正す。この5月、豊かな経験を通じて、皆さんが心身ともに一回り大きく成長してくれることを願っています。